

1 課題を抱える業務の内容

本市の山間部の一部では、明治後期から開発が始まり、別荘・保養所・観光施設の増加に合わせて上水道の整備を進めました。

2 課題の詳細

この当時の給・配水管※の竣工図が十分とは言えず、また施設や山間部の荒廃が進んでいることもあって、その管の位置特定に苦慮しています。

※配水支管で樹脂管が用いられた部分

【現状】

●管路位置不明

管路がどこにあるか分からない。そのため、漏水調査に多大な労力を割いている。

→低い有収水率の推移



“想定”給水管位置
(布設時は人道)

【職員の声】

●管網管理の向上と省力化

- ・断水せず、地上からの調査(省力化)
- ・管路位置を把握して漏水調査(省力化・効率化)

→有収水率の向上

3 こんな技術を求めています！

- 軽量で高精度な樹脂管の管路探知技術

4 技術の導入により代替が期待される業務

漏水調査業務

5 事業規模・業務量

当該地域の給水管延長：約27km